

令和7（2025）年度 事業報告書

2025年4月1日～2026年3月31日

特定非営利活動法人 小児救急医療サポートネットワーク

I. 総括

令和7（2025）年度事業計画は、以下の3点を目標とした。各目標についてある程度達成できたが、課題も残った。

1. 電話相談事業では、相談の充実と応答率増加を図る
2. 電話相談の知見を活用し、保護者支援・受け入れ機関との連携を図る。
3. NPO法人としての活動を強化する

1. 当団体の運営により、大阪府小児救急電話相談（#8000）事業を行った。相談件数は64,793件と6万件を超えたが、前年度から減少傾向であった。
2. 昨年度に引き続きトビラフォンを用いて集計した結果、応答率は改善した。
3. （一社）大阪小児科医会にオブザーバーを依頼し、運営会議および医会会報で意見交換を行った。
4. 電話相談員の研修は、オンラインを併用した研修4回（外部講師2，内部講師2）とグループワーク1回、自主研修1回を行った。
5. 冊子とグッズを用いた保護者への啓発について、講師養成講座を開催した。
6. 新生児受け入れ可能な小児科医リストを更新し、産婦人科医会に資料を提供した。
7. 小児の頭部打撲の夜間受け入れ医療機関を把握するため、調査を行った。
8. #8000全国情報センターに9月～11月分の相談に関するデータを送った。
9. 韓国ソウル市で、韓国の電話相談シンポジウムで代表が基調講演を行った。
10. 令和6年度大阪府医師会医学会総会で、話中電話に関する調査結果を発表した。
11. 厚生労働省の全国#8000相談員研修会2回で講師を担当し、大阪の相談員2名が参加した。
12. 出務環境検討委員会を開催し、意見交換を行った。
13. 出務忘れへの対応としてLINEの活用と、相談員出務管理システムの導入を検討した。
14. 会報「さぽネット通信」第3号を作成し、正会員・賛助会員に案内した。
15. （一社）大阪小児科医会に#8000事業委託を依頼し、内諾を得た。

2025年度の課題として、以下が挙げられた。

1. 勤務変更確認や出務忘れ等の課題に対して出務管理システムの運用開始となった。
2. 応答率は改善したが、時間帯や曜日によって差があり、配置などの工夫が必要と考えられた。
2. 新生児を受け入れる小児医療機関リストの掲載件数や周知活用はまだ不十分であった。
3. 保護者への啓発はやや進んだが、講座開催はまだ少なく、周知も不十分であった。
4. 初期救急医療機関との連携・薬に関する相談・小児内科以外の診療科の受け入れなど懸案事項は#7119や救急医療情報センターも共通の課題であったが、解決策の構想は立てられなかった。
5. 他機関との連携は、面識ができたが、具体的な課題解決への連携は今後の課題となった。
6. NPO法人で事業受託を目指すには入札となるが、格安で受託する業者が出現した現在では、安定的な運営や設備投資を含めた予算で受託あるいは受託を維持するのは困難と考えられた。

II. 各事業報告の詳細

(1) 小児救急等に関する相談事業

①大阪府小児救急電話相談（#8000）事業

大阪府小児救急電話相談の運営を円滑に遂行することができた。準夜帯 19 時開始、20 時から 5 回線深夜帯 2 回線を維持した。年間相談件数は 64,793 件と昨年度を下回った。出務管理システムを検討し、導入を決定した。

②相談受付票の電子化事業

受付票入力のトラブルに際し、今後継続して対応できる業者の選定を検討した。

③データ集計事業

月々のデータ集計結果は毎月の運営委員会で NTT データ関西と大阪府に報告した。（一社）大阪小児科医会にオブザーバーを依頼し、年 2 回の運営委員会での意見交換に加えて、2025 年度の相談事業のまとめについて医会会報に報告した。9 月～11 月の 3 か月間のデータを、日本小児科医会 #8000 情報収集センターに報告した。

④出務環境検討

#8000 出務検討委員会を 4 月 26 日、6 月 5 日、11 月 22 日、1 月 25 日に開催し、勤務体制その他について意見交換を行った。

(2) 普及啓発事業

①小児救急電話相談に関する普及啓発事業

HP の保護者や一般を対象にした「お役立ち情報」の日中新生児の受け入れ可能な小児科医リストを更新した。会報さぼネット通信は第 3 回号を作成し配信した。

②小児救急に関する講座・講師紹介事業

保護者の家庭看護力向上や保育士、#8000 相談員を対象にした講座を行った（表 1）。

(3) 人材養成事業（表 1 参照）

①電話相談員研修事業

大阪府 #8000 相談員を対象とした電話相談の研修のうち 2 回は、外部講師を招いて「予防接種について」と「口腔外科」の講座を開催した。

(4) 調査・研究事業

①電話相談内容の分析事業

11 月 9 日の令和 7 年度大阪府医師会医学会総会で、「頭部打撲を主訴とする電話相談の分析～2022-2024 年度 大阪府 #8000 の報告～」について発表した。

2025 年度小児救急電話相談実績報告書において、年度のまとめを作成し、大阪府に報告した。（一社）大阪小児科医会の会報 214 号に 2024 年度の報告を掲載した。2025 年度の報告は会報 218 号に投稿中である。

②新生児受け入れ体制整備事業

日中新生児の受け入れ可能な小児科医リストを更新した。

③話中電話検討事業

#8000 で受電できない話中電話の件数調査を継続した。

表1.研修会・講座の報告一覧

	開催日	場所	研修内容	講師・担当	参加人数
相談員研修会	5月31日	たかつガーデン・ZOOM	予防接種について 最新情報 電話相談で気を付けること	ふじおかクリニック 藤岡雅司	40名
	7月26日	たかつガーデン	グループワーク研修 保護者はなぜ電話をかけてくるのか	廣岡由紀子・福井聖子	6名
	9月～12月	上本町事務所	自分の声を聴きましょう	廣岡由紀子・福井聖子	8名
	9月13日	MINPAC レンタルスペース	「お家で子どもを見守るために」 保護者啓発講師養成講座	福井聖子	12名
	10月18日	上本町事務所・ZOOM	痛み・泣き止まないの相談について	福井聖子	18名
	11月29日	たかつガーデン・ZOOM	口腔外傷について 受診の目安と家庭でできる手当について	阪大歯学部 小児歯科学教授 仲野和彦先生	28名
	2月21日	上本町事務所・ZOOM	家庭内対応・緊急度判断・その他	福井聖子	24名
外部電話相談	9月6日	ZOOM	令和7年度日本小児保健協会 電話相談ベーシックコース 小児救急電話相談スキルアップ研修会		33名
	12月12日	韓国ソウル市	開始から現在まで 日本の医療システムとコミュニティにおける 小児電話相談の役割と影響		65名
	1月7日	福岡市	福岡県#8000相談員研修会		15名
	2月11日・14日	東京都・ZOOM	厚生労働省#8000対応者研修全国#8000相談員研修		計39名
一般対象講座	5月26日・7月7日・10月6日・1月26日	西宮市	西宮市ファミリーサポートセンター 保育サポーター研修		計44名
	10月8日・3月4日	箕面市	箕面市ファミリーサポートセンター 保育サポーター研修		計19名
	1月23日	堺市	堺市西区子育て支援センター 保護者対象啓発講座		10名
	8月1日	高槻市	どうぞのおいす		8名
	1月29日	箕面市	箕面市子育て支援センターひじり 保護者対象啓発講座		10名
	11月8日	神戸市	家庭擁護促進協会		32名

Ⅲ. 社員総会の開催状況

第11回通常総会 2025年5月31日(土曜日) 15:30~16:00

場所: 大阪府教育会館 たかつガーデン

社員総数: 52名 出席者数: 31名(うち委任状出席者 20名)

- 内容: 1. 2024年度事業報告・会計報告について
2. 2025年度事業計画・事業予算について
3. 2025年度理事改選に関する件
4. その他

以上について、承認を得た。

IV. 事務局 理事会と定例会の開催状況

理事会

2025年12月20日（土曜日） 15:00～16:30

場所：上本町事務所・ZOOM 出席：理事5名・監事1名

1. 2024年度事業報告・会計報告について
2. 2025年度事業計画・事業予算について
3. 年間研修計画・実施状況報告
4. 保護者啓発事業について
5. 新生児リストの活用と情報収集について
6. さぼネット通信 第3号作成の報告
7. 理事1名解任のケンについて
8. 事務長交代について
9. その他

定例会

毎月1回 理事長と事務局職員で進捗状況を確認した。